男性の癒し・日本民俗舞踊

国際基督教大学　近藤洋子

序論

古能と呼ばれる神楽，古歌舞伎の小歌おどり，各地の盆踊り等と現地そのままを第一義とした実践研究が進んでいくなかで，運動万能の私が，かつて一度も味わったことのない衝撃的実感に慄然とした。ひと汗ごとに，身も心も自由にのびのびしてゆく自分がはっきりと感じられるのであった。これは一分，一秒でも早く学生に伝えなければ…と，1970年よりCreative Dance授業は日本民俗舞踊授業にとって変わった。授業及び自分の身体への記録，という二つの実践研究の中で，男性主体の踊りが多いことに気付いた。その頃，プライベートの生活において，出産という出来事を迎えたのだが，それは自分史での大事件であった…生まれてからこれまでの苦労がすべて報われた様な，癒されたかのような感覚…に見舞われた。この時，こうゆう節目のない男性（月々の生理もない）にとっての良き節目が，祭の担い手，舞手，踊り手の多くが男性である，という事にもなっているのでは…。すなわち「民俗舞踊は男性にとっての癒しである」という仮説が成立した。この仮説を１．教材分析　２．男子学生レポート分析から検証し，実証を試みた。

本論

１．教材分析（教材として取りあげた演目）

下線部…現在地元での男性の演目
下線なし…女性の演目
二重下線部…男女の演目
☆印…昔は男性の演目であったもの
（※）印…男性が女装して踊るもの

○動的な演目

比山番楽…三番叟，
早池峰神楽…翁舞，三番叟，八幡，天降り，普将，天照らす五穀，下舞
徳山の盆踊り…鹿ん舞，☆ぼたん（※）
西馬音内盆踊り，
☆黒川さんさ踊り…輪踊り，組み踊り，竹の子舞，
アイヌ古式舞踊…弓の舞，剣の舞，船出歌，雨燕の舞，バッタの舞

○静的な演目

こきりこ…しで踊り，びんざさら踊り，手踊り，
鹿島踊り（※）…桜川，羯鼓，
早池峰神楽…鳥舞（※），天女（※），
綾子舞…小原木踊り，常陸踊り

○どちらともいえない演目

アイヌ古式舞踊…挨拶の踊り，雨燕の舞，ウサギの踊り，橋の踊り，船漕ぎ，タカマキリリ，色男の舞，輪総踊り
早池峰神楽…神樂，水無月

以上から解るように動的な踊りはもちろんのこと静的な踊りも男性の踊りが多い。

２．男子学生のレポート分析

現存する30年間の授業レポートの大部分は「感想文」であった。

調査レポート総数247
1970～1979年：55名分
1980～1989年：135名分
1990～1999年秋学期：57名分

調査分析結果

自由記載の文章を分析し，癒しに関係すると思われる文節を抽出し，分類を試みた。

○思いもよらなかった快感を伴う体験をのべたもの

・新鮮だった・よそうとは全然違って，大学に入って一番楽しい授業だった・照れや恥ずかしさが消え踊ること自体に楽しみを見い出した・段々上気して思わずリズムに乗り，あっという間に一学期が終わってしまった，等。

○体の内に潜在していたものの目覚めをのべたもの

・自然を感じた・ねむっていた原始的リズムを発見，無意識の内に体がリズムをとった・童心に帰った・たおやかな自分を取り戻した・早いリズム一定のパターンで全身を躍動させるのは本能的快感がある・一個の人間という本質的な何者かに同化できる，土と共に生活していた人間という不思議な郷愁を感じた・人間の心の叫び，人間の本質を表わしていると思う，等。

○日本的なものへの実感・共感をのべたもの

・日本民族としての血が駆け巡る・西洋文明の浪に打ち砕かれ忘れかけていた彼岸の何者かを突然取り戻した・５才から外国生活が長く「日本人としての心の証明」をしてみたかったが，日本人として自分を一段高く持ち上げることが出来た・日本伝統美にふれた・何か昔を思い出させるような日本の心からの歌や踊りと感じた，等。

○経験したことのあることの比較をのべたもの

・他の踊りと違って違和感がない・へたな体操より運動になる。スポーツは無意識にできるようにトレーニングしますが，潜在的に誰もが持っているように思う・今まで経験した踊りと違い，愛をテーマとした映画，小説を見た時に感じる思いと同様の思い，等。

○身体的，精神的「癒し」の実体験をのべたもの

・ストレス解消になった踊っている時は何もか

も忘れることが出来た・病み上がりの私が一回も休まず続けられたのはこの踊りのおかげでしょうか，先人達が健康保持に生み出した知恵に感心した・背中の調子が悪かったが大部分良くなってしまった・クラブで腰を痛めたので日本の踊りならと思ったのだが，予想と違いクラブに勝るとも劣らないハードさなのに不思議なことに腰が痛まなかった！等。

結論

30余年実践研究で取りあげた民俗舞踊は，（活動的なもの・静的なもの・どちらともいえないもの）大半が男性主体のものであった。それを体験した男子学生の反応は予想外の好評で，「癒し」に関係する多くの実感が述べられていた。「民俗舞踊は男性にとっての癒しである」という仮説は実証されたといってよいと思われる。しかし，それ以上の，人間の根源に関わる深い洞察を学生の文章から数多く伺い知らされ，まさに「教えることは教わること」でもあるという真理をあらためて思い知らされた。踊る実体験をとおしてのみ気づく事のできる，言葉や文字に表わすことの出来ない大切な何かを示唆する伝統ある日本民俗舞踊の奥深い世界に，更に迫るべく研究を継続したい。